

令和7年度のイベント情報

移動美術館 佐藤忠良展

この展覧会では、佐藤忠良の代表作をはじめ、子どもたちに対する温かなまなざしが感じられる作品や絵本の仕事を紹介します。宮城県美術館の改修工事にともなう休館のために企画された本展は、石巻市博物館、しばたの郷土館を巡回し、大和町が最終会場となりました。

佐藤忠良の生誕地である大和町では、まほろばホールが所蔵する佐藤忠良作品もあわせて展示します。



佐藤忠良《おくるみ》1971年 宮城県美術館蔵

〔会場〕まほろばホール
（大和町ふれあい文化創造センター）
〔会期〕5月18日（日）～6月22日（日）
〔会館時間〕9:30～16:30
〔休館日〕毎月第1、第3火曜日
〔入場料〕無料



教科書になった『おおきなかぶ』（佐藤忠良（画））
宮城県美術館蔵

関連事業

子どもも大人も楽しめる！ 参加体験プログラム

6月7日（土）10:00～15:00

〔会場〕まほろばホール2階
談話ラウンジ
〔担当〕宮城県美術館学芸員および
教育普及部職員
〔内容〕彫刻シルエットクイズや紙に
よる彫刻づくり体験、タッチ&
ギャラリー・トークなど
※詳細はWEBサイトをご確認ください

ギャラリー・トーク

5月18日（日）11:00～11:30

〔会場〕展示会場内
〔担当〕宮城県美術館 学芸員
※佐藤忠良ギャラリー前集合

宮城県美術館 高精細 レプリカ名作展

令和6年度に開催し好評を得た、高精細レプリカ名作展を県内2カ所で開催します。ぜひお近くの会場にご来場ください。

〈in 登米〉	9月10日（水）～17日（水） 休館日：16日（火） 水の里ホール・Abebisou （登米祝祭劇場）
〈in 角田〉	9月20日（土）～28日（日） 休館日：なし かくだ田園ホール （角田市市民センター）

当館コレクションによる展覧会

令和6年度に引き続き、当館を代表する作品をご覧いただける下記の展覧会を、全国の美術館で開催します。
※休館日等詳細は各館WEBサイトなどご確認ください

「響きあう絵画 宮城県美術館コレクション カンディンスキー、高橋由一から具体まで」

久留米市美術館	開催中～5月11日（日）	岡山県立美術館	7月4日（金）～8月24日（日）
大分市美術館	5月18日（日）～6月22日（日）	群馬県立近代美術館	9月13日（土）～11月9日（日）

「宮城県美術館コレクション 絵本のひみつ展」

富山県美術館	7月12日（土）～8月24日（日）	栃木県立美術館	10月25日（土）～12月21日（日）
--------	-------------------	---------	---------------------

宮城県内では石巻市博物館において、当館が特別協力を行った展覧会が開催されます

「近代を生きた東北ゆかりの画家たち—宮城県美術館コレクションより—」

〔会場〕石巻市博物館 〔会期〕5月24日（土）～7月13日（日）
〔休館日〕月曜日（月曜日が祝祭日の場合、翌火曜日が休館）

作品貸出情報

※休館日等詳細は各館WEBサイトなどご確認ください

右記の展覧会 に当館の所蔵 作品を貸し出 しています。	展覧会名	パウル・クレー展 —創造をめぐる星座—	
	会場・会期	兵庫県立美術館	3月29日（土）～5月25日（日）
		静岡市美術館	6月7日（土）～8月3日（日）

まちなか美術講座

宮城県美術館と東北工業大学で共催している「まちなか美術講座」を令和7年度も開催する予定です。詳細はWEBサイトをご確認ください。

宮城県美術館ニュース（休館中限定号）
Vol.7 発行日／2025年3月26日

休館中の当館の情報については、WEBサイトも併せてご覧ください
<https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/>

宮城県美術館

〒980-0861 仙台市青葉区川内元支倉34-1 電話番号：022-221-2111
メール：bijutu@pref.miyagi.lg.jp ファックス：022-221-2115



宮城県美術館ニュース

2025年3月26日発行

休館中
限定号
Vol.7

RENEWAL NEWSLETTER



工事中の美術館

外壁もリニューアルで リフレッシュ

美術館の外観は昭和56年の開館から40年以上経過し、その間長らく風雨にさらされてきたことで美術館の建物も外壁の汚れが目立ってきました。そこで、建物全体に足場を組み、高圧洗浄機などによる洗浄作業を行い、開館当時のきれいな外観を取り戻します。



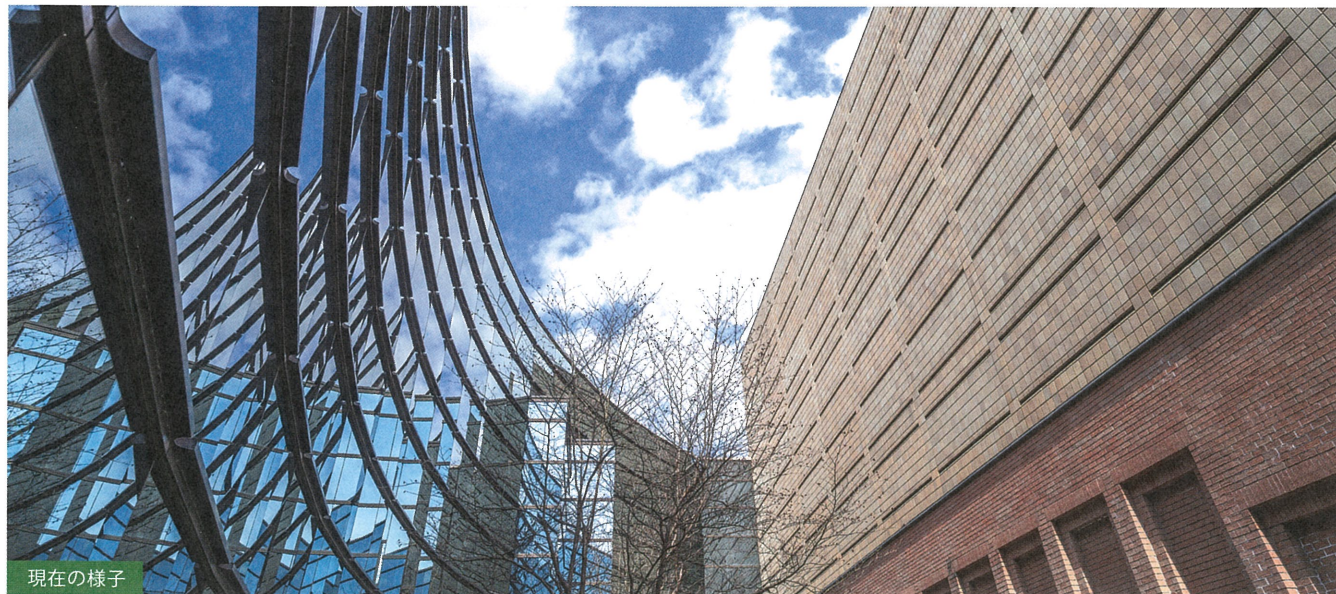
汚れが目立つ外壁（北側）



施工中の様子



きれいに生まれかわった外壁



現在の様子

アリスの庭からの眺め

傷んだタイルを 貼り直しています

建物と同様に、40年以上を経過したタイルは、傷みが大きくなったため、現在のタイルを剥がし、新たなタイルを貼り直して、開館当時の美しさを再現します。



改修前

亀裂の入ったタイル



現在の様子

タイルを剥がした状況の中庭



中庭完成予想図

新宮晋《時の旅人》 約20年ぶりのオーバーホール



大規模修繕を終えた《時の旅人》

開館以来北庭に設置されている新宮晋の《時の旅人》は、当館の屋外彫刻の中で最も背が高い作品です。「動く彫刻」としてもおなじみですので、自然の風によって羽がクルクルと回っている様子を、皆さんもご覧になったことがあるのではないのでしょうか。本作はその大きさや「動く」機構を持った作品であることから、通常の点検・メンテナンスに加えて、十数年に一度、解体を伴う大規模修繕（オーバーホール）を行う必要があり、今回、美術館が長期の休館になるという機会に合わせて実施することができました。休館中だからこそ可能になったともいえる、大がかりな修繕作業の様子をご紹介します。

オーバーホールは、まず作品の羽の部分を取り外して大型トラックで工場まで運ぶことから始まります。普段軽々と動いて見える羽ですが、その素材は金属で1枚当たり500kg近い重さがあります。そのため、羽の取り外しと大型トラックへの積み込みにはクレーンの使用が必須（写真①）。作業は丸二日かけて行われ、無事美術館から旅立っていきました（写真②）。

工場では、運び込まれた羽を解体し、入念な調査と点検が行われます（写真③）。



①クレーンによる羽の取り外し



②大型トラックでの輸送

その過程で、作品の大きな体を支えるボルトや、軽やかな「動き」を可能にしている各種のベアリングなども全て点検し、必要に応じて新しいものと交換していきます（写真④）。



③工場での解体・点検（上）

④様々な部品の点検・交換（右）



⑤動作確認

点検、交換を終えた後には新たな塗装を行い、さらに作者立会いのもとで動作確認も実施されました（写真⑤）。

2024年11月下旬、いよいよ作品の再設置です。取り外し時には青々としていた木々も秋の装いとなり、3カ月超にわたった修繕作業の時間を感じさせます。羽の取り付け前には、美術館に残されていた支柱部分にも新たな塗装を施し（写真⑥）、翌日からついに羽を戻す作業です。解体時同様クレーンを駆使して慎重に取り付けを行い（写真⑦）、最終調整を経て作品は再び動き出しました。



⑥支柱の塗装



⑦羽の再取付

風を受けて回るその動きは心なしか躍動感を増し、嬉しそうに見えます。皆さんの目に触れるのはもう少し先になりますが、美術館が再開した際には、ぜひ北庭にも足を運んでいただき、その姿をご覧ください。（学芸部 土生和彦）